

〔別紙⑩〕

(1) 授業の流れ

① 「職業ランキング」から考える。【活動1】

- ・ 男の子が男の子らしい職業じゃなくて何でもやっていいと思う。
- ・ 自分がやりたいのをやったらいい。

② 挿絵の2人の職業を予想する。その理由を考える。【活動2】

<挿絵A>

- ・ 看護師さん。白い服を着ているから。
- ・ 病院の人。病院で見たことがあるから。
- ・ 看護師さん。首に何かかけているから。
- ・ 看護師さん。顔の横のものから。

<挿絵B>

- ・ 医者。ケガをしている人を見ているから。
- ・ 医者の先生。子どもの手をにぎっているから。
- ・ 先生。普通の青い服を着ているから。
- ・ 保健の先生。場所や服やものを見て。

③ 挿絵の2人の職業を知る。

- T: 挿絵Aは医者です。
 C: 医者なん? 看護師じゃないん?
 C: 医者は、男の人というイメージしかもってなかった。
 C: 僕が通っている病院の先生は、みんな男の人だから…。
 T: 挿絵Bは保健室の先生です。
 C: ええー?
 C: 見た目で決めとった。
 C: 保健の先生は女の人というイメージしかなかった。

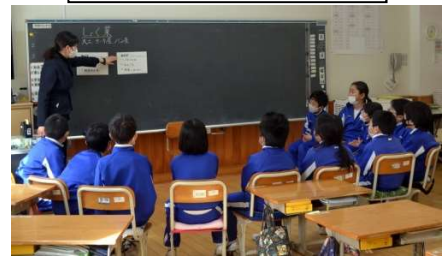
――― 指導者の話 ―――

「見た目とかで判断してしまった」という意見がありましたが、昔は、「男の人はこの仕事。女の人はこの仕事。」と思っていた時代がありました。例えば、「看護師さん」や「保育士さん」。この2つの職業は、昔は違う呼ばれ方をしていました。「看護師」は「看護婦」、「保育士」は「保母」と言われていたのです。男の人がその職業につくようになり、今は「看護師」、「保育士」と呼ばれるように名称が変わってきたのです。

④ 職業ランキングにもどり、もう一度考える。【活動3】

- T: 男の人が、看護師やパティシエが少ないと思うけど、どう思いますか。
 C: 別に男の人がなってもいいと思う。
 C: 男の子がパティシエとか、なりたくてもできんというわけじゃないと思う。
 C: 男の人がパティシエになったり、女の人がサッカー選手になったりしてもいいと思う。自分が好きな職業になったらいい。

職業ランキングから考える



個人で考える



ペアでの話し合い活動



ワークシート

学活ワークシート 名前()

② しよく業について、自分の考えをもとう。

○ 2人のしよく業は何でしょう。また、そのように考えたわけやぎもんなどを書きましょう。

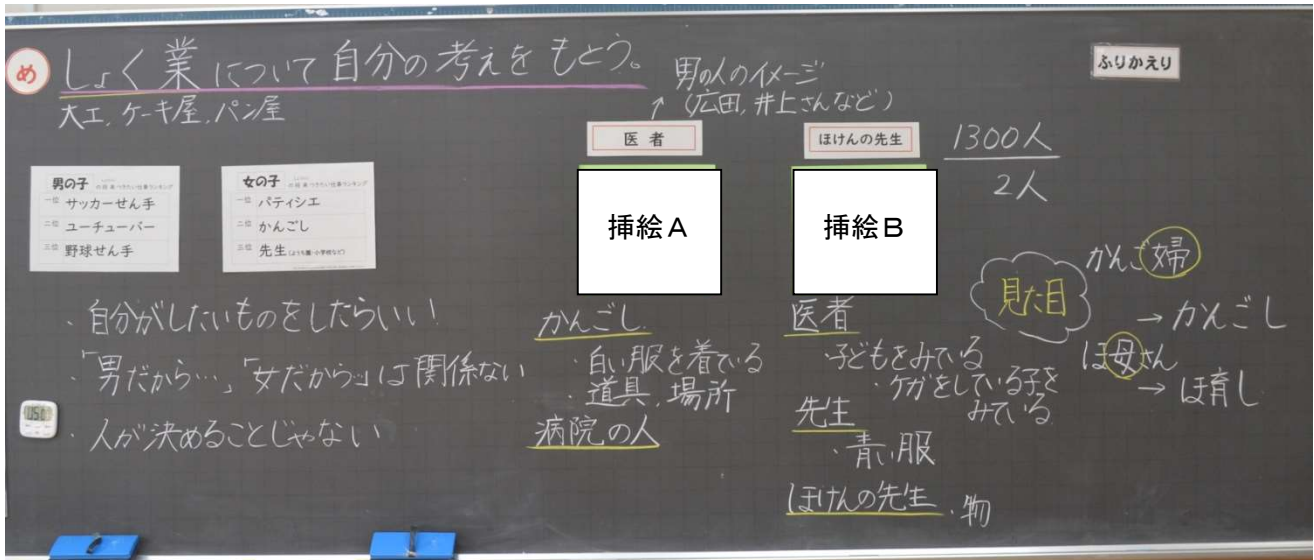
Aの挿絵	しよく業
	わけなど
Bの挿絵	しよく業
	わけなど
ふり返り	

⑤ 今日の学習をふり返る。

児童のふり返り

- ・ 兵庫県の保健の先生は、1300人のうち男の人が2人しかいないんだなあーと思いました。
- ・ もっと男の人や女の人の職業について調べたいと思いました。
- ・ 自分がやりたい職業をしたらいいに納得した。
- ・ これは男の人の職業、これは女の人の職業と区別したらダメなんだと、前より強く思いました。
- ・ 最初は、お医者さんは男の人のイメージだったけど、だんだんお医者さんは女の人になってもいいし、男の人でも保健の先生になってもいいって分かりました。
- ・ 男、女によって職業が決まるのではなくて、自分の好きなように職業を決めたらいいことが分かりました。将来、自分が職業を決めるときに使いたい。
- ・ 男だから絶対サッカー選手とか、女だから絶対パティシエとか、関係ない。自分がやりたいやつをやればいい。人が決めることじゃないと思った。
- ・ 見た目で判断していたけれど、その人がやりたい職業になったらいいと思いました。私も自分がやりたい職業につきたいです。
- ・ 「男の子だから…」とか「女の子だから…」は関係ないし、自分の夢は自分で決めたらいい。

(2) 板書



(3) 授業を終えて

学習を通して、児童の職業への認識を把握することができた。【活動1】では、「男の子と女の子で職業を分けてランキングしなくてもいいと思う。」「職業に男女関係ないと思う。」というような発言が多くあがった。1・2年生での学習がしっかり身に付いており、性別で職業や能力を決めることはよくないということが理解できている。ふり返りからは、「自分がやりたいことをやればいい。」「性別によって職業が決められるものではない。」などの意見があり、多様な性に対する認識がさらに高くなったと感じている。

【活動3】で「なぜ男女でアンケートを分けているんだろう。」「もし周りに悩んでいる人がいたらどうする？」などを問いかけることで、児童の意識を学級や学校の中だけでなく、社会に向けることができたのではないかと考える。また、「医者には男の人が多い。女の人を見たことがない。」などの、素直な意見を児童どうしで受けとめられるように、発問を工夫すれば、さらに深くまで考えることができたと思う。今後も、児童の発達段階を見定めながら、教材開発など研修を重ねていきたい。

ふり返りを書く

